

# 「人権に関する作文・絵画（小中学生の部）入選作品」

すべての町民の基本的な人権が尊重され、差別のない明るく住みよい町の実現に向け、人権に関する標語などを募集しました。入選作品の作文6点、絵画10点を広報1月号から随時掲載し、紹介しています。

豊能町人権まちづくり協会・豊能町教育委員会



園田 結以  
(光風台小学校 2年生)

## 「本当の平和とは」

東ときわ台小学校 6年 岡本 稜矢

ぼくは、「杉原千畝物語」を読んで、世界から認められている平和への強い思いと、人を思いやる強い気持ち、平和の大切さを改めて杉原千畝さんから感じさせられました。

千畝さんがフィンランドにやって来て2年あまり過ぎたころ、領事代理になるように命令が出て、リトアニアに行きました。ナチス・ドイツの力が広がり、ユダヤ人が排除されるようになっていました。そのユダヤ人難民の群れを見た妹の杉原節子さんが、

「そうなの・・・だったら、あの人たちを助けてあげなくちゃね。」  
と言った言葉が、ビザ発行の始まりです。まちがった理解が戦争のはじまりになり、まだ幼かった息子の杉原弘樹さんが、

「助けてあげようね。かわいそうだから。」

と言ったのは、同じ年ごろの子たちを見て心配になっていたからです。助けたいと思ったけれど、そうしたら自分も殺されるかもしれない時代で、助けたくても助けられないやじさがかみあげてきて、何もできないのが自分だったらつらくてしょうがないです。それでも助けたのが、杉原千畝さんでした。ビザを求めユダヤ人のために仕事をやることになって、ナチスにつかまってもいいから助けてあげようとする思いやりに感動しました。ビザを外務省にそむいて危険をおかしてまで発行したそんな勇気をぼくも持ちたいと思いました。外務省でこれが問題にはされませんでした。事務員のグエジェさんもユダヤ人のために千畝さんの手伝いをしていました。彼はドイツ系のリトアニア人でしたが、ユダヤ人を助けた気持ちは千畝さんと同じでした。ぼくがグエジェさんだったら同じことをしたと思います。グエジェさんも危険なことは百も承知だったと思います。千畝さんを手伝った人はみんな同じ思いを持ち、ビザ発行にはげんだことはすごく偉いことだと思いました。

千畝さんが書いたビザでアメリカへ逃げたユダヤ人が戦後もずっと千畝さんの行方をさがし続けたそうです。助けてもらったユダヤ人は、千畝さんにすごく感謝していつでもお礼を言いたかったのでしょう。ぼくもそうすると思います。

千畝さんはだれよりも人思いのやさしい人でした。ぼくの中でわすれられない人です。

この本を読んで平和とは何か、戦争がないようにするにはどうすればいいか改めて考えました。本当の平和とは、世界中がおたがいに理解し合い分かち合う世界のことだとぼくは思いました。

町の木/スギ



町の花/タンポポ



町の鳥/ウグイス



人の動き	人口	男	女	世帯数
H24.2月末日	22,669人	10,884人	11,785人	8,841世帯
前月比	-58人	-24人	-34人	-13世帯
面積	34.37km <sup>2</sup>			

ホームページアドレス : <http://www.town.toyono.osaka.jp/>